

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）
留学結果報告書

令和 7 年 12 月 20 日

山梨県知事 殿

本人氏名

河野 碧海

次のとおり留学の成果を報告します。

留 学 先 国 名	オーストラリア
学 校 等 名	シドニー工科大学
留 学 期 間	令和 7 年 2 月 4 日 ～ 令和 7 年 11 月 27 日

1. 始めに

令和6年度より、山梨県大村智人材育成基金の奨学生としてオーストラリアのシドニー工科大学に約10か月留学しておりました。河野碧海と申します。幼い頃からの目標であった海外留学を無事に終えることができ、達成感と応援して下さいった皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。



出発前（空港にて）



オペラハウス



ブルーマウンテン

留学生活を通して、英語力の向上だけでなく、異なる文化や価値観の中で学ぶことの重要性を実感しました。授業では、ディスカッションやプレゼンテーションを通して、自分の考えを英語で伝える力が求められ、最初は思うように発言できず悔しさを感じる場面も多くありました。しかし、積極的に発言し、間違いを恐れずに挑戦する姿勢を大切にすることで、次第に自信を持って英語を使えるようになりました。また、現地の学生や多国籍の友人との交流を通じて、言語は単なるコミュニケーション手段ではなく、

人と人をつなぐ大切な架け橋であると実感しました。英語を学ぶ楽しさや、伝わる喜びを自ら体験したことで、この経験を将来は生徒に伝えたいという思いが強まり、英語教員になりたいという志がより一層明確になりました。

以下では、私がシドニーでどのような環境で学び、生活してきたのかを共有し、具体的なエピソードを交えながら報告書を進めていきたいと思います。

2. 日々の生活について

○寮生活

シドニー工科大学には留学生のための寮がキャンパス内にあり、私はそこで5人のルームメイトと暮らしていました。前期はアメリカ人、イタリア人、インドネシア人、中国人、バングラディッシュ人、後期はマレーシア人、インドネシア人、シンガポール人、イタリア人、スリランカ人、と国際色豊かなルームメイトたちとともに生活していました。特に、マレーシア出身の隣部屋の Olivia とは趣味や好きなことが同じで、毎週末一緒に出掛けたり、一緒に料理をしたり、常に連絡を取り合う親友のような存在でした。なにかあればすぐに話を聞き合い、私が落ち込んだ時にはいつも励まして元気をくれました。彼女の存在無しでは、留学生活を乗り越えられなかっただろうと感じています。寮での生活は非常に充実していました。友達と集まるコミュニティスペースや毎日のようにイベントが開催されていたので、色々な人と知り合うことができます。部屋は8階から20階までで沢山の部屋がありますが、各階にリーダーがいるので、寮の生活のことはもちろん、大学生活で不安なことや疑問があったら、すぐに相談することができます。寮の中でも、一人部屋かシェアかを選ぶことができますが、私はシェアを選んで本当に良かったと感じています。



Olivia と共に



UTS キャンパス

○アルバイト

留学が始まって1か月が経ち生活や学校に慣れたところから、アルバイト探しを始めました。物価が高いオーストラリアで生活費は自分で稼げるようになりたいと思い、探し始めました。シドニーではアルバイトを見つけるために履歴書を自分で配り歩く必要が

あることは知っていましたが、それが想像以上に大変なことでした。インターネット応募も含め、合計 50 軒ほど配りましたが、返事がきたのは 10 軒もありませんでした。そこからトライアルなどを重ね、やっと働けることになったのがショッピングモールに入っているカフェでした。カフェではホールとして働いていました。初めは、注文を聞き取ることに苦勞しましたが、働いているうちに聞き取れるようになっていきました。人間関係にもすごく恵まれている職場で、オーナーやマネージャーがすごく親切で、右も左も分からない私に嫌な顔せず色々なことを教えてくれました。キッチンの方たちは、私が料理が苦手なことを知っていたので、帰りにいつも賄いを作って持たせてくれました。そのおかげで、留学期間食事で苦勞することはありませんでした。最終的にはオープン作業やクローズ作業など、ワンオペレーションで働くこともありました。8 か月程の短い期間ではありましたが、すごく貴重な経験をさせていただきました。

○休日の過ごし方

授業やアルバイトがない休日にはシドニーのあらゆる所に出かけていました。貴重な留學生活、時間を無駄にしたくなかったので家に 1 日中いることはほとんどありませんでした。オーストラリアはカフェ文化が発展していて、そこら中にカフェがあります。そして、カフェ一軒のクオリティがすごく高いことも魅力的です。オーストラリア人は毎朝お気に入りのカフェでフラットホワイト(オーストラリア限定)やカプチーノ、ラテを買ってから大学に行ったり、仕事に行ったりします。私も日本にいる時はコーヒーを飲むことはあまりありませんでしたが、お気に入りのカスタムを見つけてよく飲んでいました。また、シドニーには数えきれないほど沢山のビーチがあります。ペストリーや本を持ってビーチで寝転がって過ごすのが心地よくて、友人とはもちろん一人でもよく行っていました。シドニーはすごく都会ですが、日本の都会のように交通機関が混み合うことも無く、快適にあらゆる場所まで行くことができます。また、大学の長期休みの期間には、現地で仲良くなった友人たちとオーストラリア内の他の都市に旅行に行きました。メルボルン、ブリスベン、ゴールドコースト、パース、ケアンズ、どの都市も全く雰囲気が違うので楽しかったです。日本からも友人たちがシドニーに遊びに来てくれました。来てくれた時には、シドニーの名所から穴場などを案内して、みんながシドニーを気に入ってくれたのですごく嬉しかったです。



お気に入りのビーチ



ホテルパーティーにて



人気のカフェ

3. 授業について

○秋学期の授業

秋学期の授業では、主にオーストラリアの文化について学ぶ授業を履修しました。オーストラリアで働く人々の生活を切り口に、働き方の変化や休暇制度、福利厚生など、社会的な背景についても理解を深めました。私はオーストラリアの大手銀行である Commonwealth Bank of Australia で働く方にインタビューを行い、仕事に対する価値観やワークライフバランスについて学びました。また、オーストラリアで放映されているドラマを一つ選び視聴し、一話ずつあらすじをまとめるとともに、その作品に表れている文化的背景について考察し、プレゼンテーションを行いました。これらの活動を通して、英語で内容を整理し、自分の考えを表現する力を養うことができました。



○春学期の授業

春学期の授業では、主に環境問題について学びました。世界各国で深刻化している環境問題を取り上げ、それぞれがどのような問題であるのか、その原因や背景、さらに改善策の可能性について理解を深めました。授業では一人一人が異なる環境問題を選び、

文献や資料を用いて調査を行いました。その成果をもとに英語でプレゼンテーションを行い、他の学生と意見を共有し、グループディスカッションを通じて、多角的な視点から問題を捉える力や、英語で発信する力を養うことができたと感じています。

4. イベントについて

○マルディグラパレード

オーストラリア最大級の LGBTQIA+コミュニティのお祭りで、毎年街に色彩と創造性の溢れるイベントをもたらします。パレードは 12,000 人以上の参加者と 200 台以上のフロートが色彩豊かで独創的、そして誇りに満ちた壮大な展示で観客を魅了します。オーストラリアで生活する中で、日本と比べて LGBTQIA+の人々に対する社会的な寛容さが非常に高いと感じる場面が多くありました。特に印象に残っているのが、このマルディグラです。街中がレインボーカラーで彩られ、多くの人々が性的指向や性自認の違いに関係なく祝祭を楽しむ姿が見られました。その様子から、特別な存在としてではなく、一人ひとりの個性として自然に受け入れられていることを強く感じました。また、日常生活においても同性カップルが周囲の目を気にせず過ごしている光景が当たり前であり、多様性が社会に根付いていると実感しました。この経験を通して、違いを尊重し合うことの大切さを学び、自身の価値観も大きく広がりました。

○ディナーパーティー

年に一回、寮の一大イベントであるディナーパーティーがキャンパス内で行われます。寮に住んでいる学生限定のイベントで、300 人ほどが参加していました。一人 25 ドルでコースのディナー、ワイン、ダンスショーなどを楽しめるというイベントです。ドレスコードがあったのでパーティーのためにドレスも新調しました。パーティーでは、これまで会ったことの無かった学生とも沢山話をすることができました。これまでの寮のイベントや生活の写真がムービーとして流されます。ディナーもワインもとても美味しく、これが 25 ドルで食べられるのはすごくお得だと思いました。寮の中には、日本の文化に興味をもってくれている学生も沢山いて、日本出身と話すだけで「日本は本当に素晴らしい国だね!」「日本は一番訪れたい国なんだ!」と言われると、大変誇らしかったです。ディナーが終わるとダンスパーティーが始まります。洋楽に合わせて初めて会った人とも一緒に踊るのが新鮮でした。日本とは全く違うパーティーの楽しみ方に驚くのと同時に、留学期間で最も楽しい夜でした。初めは馴染めるか不安で参加するか迷っていましたが、本当に参加して良かったと心から思います。



一緒に参加した友人 ダンスパーティー 同じテーブルに座っていた友人

○ハロウィンパーティー

大学のイベントでハロウィンパーティーがあり、全員仮装をして参加するイベントがありました。私は友人と黒猫の仮装をして参加しました。そこでも色々な学生と出会いがあり、仮装を沢山褒められました。日本にいた時には、大学でハロウィンパーティーがあることは無かったので新鮮でした。キャンパス内も装飾されて、ハロウィンの雰囲気満載でした。街中にも仮装をした人たちが沢山いました。日本とは違う季節のイベントを楽しむことができて良い経験になりました。

5. 最後に

最後に、本留学を通じて、留学に行かなければ経験することのできなかった出来事や、出会うことのなかった人々、目にすることのなかった景色に数多く触れることができたこと強く感じています。異国の地で生活し、学ぶ中で得た経験は、私にとって人生で最も充実した一年となりました。長い人生の中で見れば、この留学期間はほんの一瞬の出来事かもしれません。しかし、あの時勇気を出して留学に挑戦するという選択をした自分を、今は誇りに思っています。この留学を支えてくださったすべての方々、そして温かく応援してくれた家族や友人に心から感謝しています。ここで得た学びを将来に生かし、さらに成長できるよう精進して参ります。